



# 町民文芸

## 只見短歌会

令和二年十一月詠草

大塚栄一

指導

馬場 八智

この秋の実入らぬ作の多かりし九十路なる我も知らぬ事なり

目黒 富子

常嫌ふ虫ではあれど降雪の間近となれば愛しさの湧く

渡部ゆき子

病める身は部屋の外に咲くコスモスに飛び来る蝶を今日も待ち居る

関谷登美子

コロナ禍に小学校の運動会元氣愛らしヨサコイ踊り

新国由紀子

老い母は好きな歌手なりと既に伸びしカセットテープを繰り返し聞く

渡部ヨリ子

ふと見れば寒さしのぎかカメムシは電気のそばを飛び回りおり

新国 洋子

リハビリの歩行訓練窓遠く浅草山の稜線長し

(出詠順)

## 只見俳句会

十一月定例会

宇多喜代子

指導

礼

引く蔓の先に尻太胡瓜かな

この道の墓地へと近し帰り花

秋の夜ガラスのジヨニー響きけり  
柳散る廃棄書籍に我を見る

一穂

踊り笠一円玉の旅がらす  
親芋を離れまいとて足付けて

信

穂芒人なき峠の道祖信  
秋深しラジオを共に学びし頃

都

一角は秋明菊の明かるさよ  
コスモスや帰省待つ母見舞うだけ

睦子

忘年会コロナの中で唄エール  
秋晴れの楽しい一時笑いヨガ

